

ほろっかん

166 大腸がん検診



薩摩郷句 兼題「痒い」
 痒い背中上の下のち女房を叱つ
 (唱) どこなどどこなち 肝長げ女房
 北村 虎生
 治い前じやるでち痒い手術痕
 (唱) 我慢いきらんち 搔かじいたくつ
 諸木 小春
 霜腫れを炬燵が余計痒ゆなけつ
 (唱) 寒みこちや寒し 出い訳け行かじ
 西ノ園ひらり
 痒い吹出物医者しえな診せ難き所け出来つ
 (唱) 病院に行こも かつた恥のし
 植村聴診器
 孫ん手で痒いとこゆ搔つ皮も剥つ
 (唱) 加減も出来ん 不調法な親父
 二見愚楽満

大崎短歌会 兼題「大崎を詠む」
 螢飛び布袋草咲きし田原川むかしに変わらぬ
 清流となり
 雄大な大塚古墳に佇めば広き田園一望の町
 坂元つる子
 大崎にひとり住む家わが領地紛れもあらぬ地
 球の一点
 近藤しづ子
 大崎にお世話になりて七十年古里恋いて帰る
 子等あり
 内田ちどり
 店内は甘き香りに満たされぬ大崎特産の完熟
 苺
 長重 悦子

大崎俳句会
 子ら去りて言葉少なに春炬燵
 内村美恵子
 ホワイトデー予期せぬ人の贈物
 坂元つる子
 小春日を猫連れ歩く老婆かな
 益倉 睦美
 しらじらと夜明けの月や鳥雲に
 宮下 のし
 夢ごこち牛の産声春隣
 折田 スズ
 房咲きの緋寒櫻に雨しづく
 宮脇 洋子
 さまよえばさざ波よする櫻貝
 新小倉 ハツ子



今月の表紙

持留川に咲き誇る菜の花

『大崎小唄』の一節に♪春はネ 春は大崎 菜の花ざかり♪の詩があります。伐採管理が行き届いた河川敷には菜の花が自生し、まるで黄色いじゅうたんのようでした。

人権啓発シリーズ⑭

～人権について、考えてみましょう。～

【児童福祉週間・・・5月5日～11日】

子どもや家庭、子どもの健やかな成長などについてみんなで考えることを目的に、5月5日『こどもの日』から一週間は、厚生労働省より『児童福祉週間』と定められています。

子どもは『社会の宝』です。子どもの成長を社会全体で支え、喜び合いましょう。

《平成23年度『児童福祉週間』の標語》

おいでおいで みんなで一緒に 遊ぼうよ